

熊本県「JA やつしろ」の取り組み 「露地野菜の産地化を目指してキャベツ 『YR冬晴 (00051YR)』を試作して」

熊本県・JA やつしろ
宮農部 園芸・果樹課
指導係 富永隆裕

八代地域は、九州のほぼ中央に位置し、八代海に向かって長方形に広がる八代平野と、東部から県南にかけての山麓地帯からなっています。平野部の2/3が干拓によって造成され、八代地域を流れる球磨川の取水が平野を潤しています。

現在、八代地域の特産として全国的に有名な「トマト」「い草」を始め「メロン」「いちご」など、多種多様な農産物が生産されています。

しかし、近年の輸入農産物等の影響と不安定な農産物価格推移を背景に、離農や高齢化等が進み、新たな産地形成の模索が行われ、広大な農地を生かした「露地野菜産地化」を目指し、推進体制を図りながら、目まぐるしく変動する農業形態に戸惑いながらも、八代の農家一丸となって取り組んでいます。

管内の主な露地野菜としては、キャベツ・レタス・ブロッコリーなどを主として、その他様々からなり、雨除け栽培などを含め、約30品目の露地野菜を取り扱っています。

近年の、キャベツを始めとする野菜全般の需要の動きについては、(働く女性の増加や核家族化等により、)外食・加工品・惣菜需要等が伸びており、その割合は年々増加傾向にあると言われています。

この事を踏まえ、今後、露地野菜産地形成を目指す上で、用途に合わせた栽培体系を図る事が重要と考え、具体的には、品目毎に「加工向け」と「青果向け」を区分した栽培基準を設定し、用途を見据えた栽培計画の構築が、今後八代の露地野菜産地化に向けて重要なと考え、安定した品質・収量の確保に努めていく事が課題となっています。

今回、キャベツ試作品種『YR冬晴 (00051YR)』は、平成15年度より試験を開始し、今年度で4年が経過しました。

この4年間は、毎年異常気象にみまわれ、露地野菜全般において、厳しい栽培環境を強いられ、キャベツにおいても例外ではなく、極端な気象変動による中での、作柄の安定を求められた年でした。

平成15年度試作開始当時は、一部地域の農家1戸から試作を開始し、その年は、扁平で、歩留り良く、ずば抜けて良い結果を得ることができました。

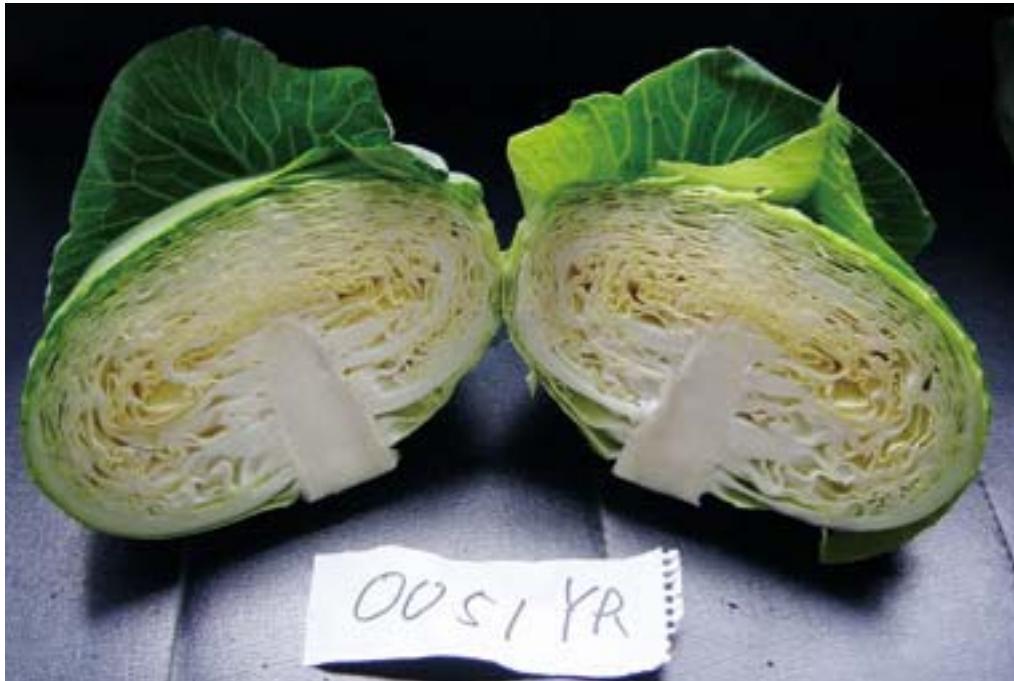
しかし、2年目、3年目と農家数・圃場を増やすにつれて、土質、生育適期、肥培管理、初期生育の顔の違いなどによって、玉太り・玉締り・アントシアン発生など様々な問題が発生し、



『YR冬晴 (00051YR)』の圃場全景



『YR冬晴 (00051YR)』の外観



『YR冬晴（00051YR）』の断面

対策が必要となりました。

『YR冬晴（00051YR）』は結球充実型という品種特性上、収穫期の玉締り、熟期の見極めが必要になる事と、初期生育が旺盛になり過ぎるとブカ玉になりやすく、又、寒さによるアントシアン発生がみられた事から、当地域においては、年内収穫で使用する品種と位置づけ、品質、生産性を安定させたための肥培管理・栽植密度・収穫適

期の見極めなど、今後総合的な対策が必要となってきます。

(写真のとおり、) 土質による根量の差、それに対する結球の充実度合いなどを調査してきましたが、初期肥効による生育度合いによるところが大きいように感じます。

この品種の全体の仕上がり具合については、形状・葉肉の厚さ・締りとともにバランスが良く、生産者・市場から

も高い評価を得ており、長所・短所をしっかりと理解した上で、栽培ていきたいと考えています。

管内的一部地域においては、年内どり作型について、既に拡大試験・導入拡大を模索している地域もあり、対応する栽培基準の確立並びに更なる品種の精度向上に期待したいと思います。



土質の違いによる形状の比較